



第26-11号

2026年5月13日

2026年度 鉄道事業設備投資計画

～「安全対策の強化」「サービスの向上」「持続可能な運営体制の構築」を軸に586億円～

小田急電鉄株式会社（本社：東京都新宿区 社長：鈴木 滋）は、鉄道事業において「安全対策の強化」、「サービスの向上」、「持続可能な運営体制の構築」に向けた取り組みを推進するため、2026年度には総額586億円の設備投資を計画します。より安全・安心かつ便利で快適な輸送サービスを、将来にわたり安定的に提供できるよう、鉄道事業の持続的な進化を目指してまいります。

<2026年度 鉄道事業設備投資計画の概要>

安全対策の強化

1. ホームドアの整備

経堂駅、和泉多摩川駅にてホームドアを供用開始します

2. 耐震補強等工事

橋梁や駅舎、高架橋など鉄道施設の耐震補強工事やのり面の改修工事等を実施します

サービスの向上

1. 通勤車両「5000形」の新造

10両1編成、8両2編成を新造します

2. 通勤車両「3000形」のリニューアル

6両3編成をリニューアルします

3. 新型ロマンスカーの車両設計

詳細設計を実施します

4. 駅舎改良工事

新宿駅、鶴川駅、藤沢駅にて駅舎改良工事を行います

持続可能な運営体制の構築

1. 大野総合車両所の移転計画

新たな総合車両所整備に向けた用地の確保、詳細設計を実施します

2. ワンマン運転に向けた工事

ワンマン運転に必要な車両改造工事等を実施します

3. 信号扱い業務の集約

駅や車両基地での信号扱い業務を、段階的に運輸司令所へ集約する工事を実施します

2026年度の鉄道事業設備投資計画の詳細は、下記のとおりです。

記

安全対策の強化

1. ホームドアの整備

お客様のホームからの転落や列車との接触事故を防止するため、「鉄道駅バリアフリー料金制度」や東京都の「ホームドア整備加速緊急対策事業」による補助金などを活用し、今年度中に経堂駅、和泉多摩川駅の全ホームでホームドアの供用を開始します。



ホームドア（写真は喜多見駅）

<参考>ホームドアの整備状況と計画

① 供用開始済みの駅	新宿（4・5・8・9番ホーム）、代々木八幡、代々木上原、東北沢、下北沢、世田谷代田、梅ヶ丘、豪徳寺、千歳船橋、祖師ヶ谷大蔵、喜多見、狛江、登戸、町田、相模大野、海老名、本厚木、中央林間、大和
② 2026年度に供用開始予定の駅※	経堂、和泉多摩川
③ 2027年度に供用開始予定の駅※	南新宿、成城学園前、鶴川、藤沢
④ 2028年度に供用開始予定の駅※	参宮橋、向ヶ丘遊園
⑤ 2032年度までに供用開始予定の駅※	小田原線 新宿～伊勢原のうち①～④を除く全駅 江ノ島線 湘南台 多摩線 全駅

※ 今後の計画は、自治体からの補助金交付状況や工事の進捗等により変更となる場合があります

2. 耐震補強等工事

激甚化する自然災害に備え、海老名～厚木駅間の「JR相模線跨線橋」や梅ヶ丘～登戸駅間の高架橋で耐震補強工事を進めるほか、読売ランド前駅、相武台前駅、座間駅、新松田駅でホーム上家の耐震補強工事を実施します。加えて、藤沢本町～藤沢駅間において、降雨や地震による被害を未然に防止するため、のり面改修工事を実施します。また、構造物の延命を図るため、継続的に行ってきた新松田～開成駅間の「酒匂川橋梁」での劣化した塗膜の塗り替え工事は、今年度完了します。



JR相模線跨線橋耐震補強工事箇所

サービスの向上

1. 通勤車両「5000形」の新造

通勤車両「5000形」10両1編成、8両2編成を新造します。車内は、広さや明るさを一層感じていただけるよう車両間の仕切り扉や荷棚、座席横の袖仕切り部に大型強化ガラスを採用しているほか、天井埋め込み形のLED照明により、空間の広がりを感じられる車内を実現しています。また、全車両に車いすやベビーカーをご利用のお客さまのスペースを設けるほか、防犯カメラを設置することで、より安全・安心な車内環境を実現しています。



通勤車両「5000形」車内

2. 通勤車両「3000形」のリニューアル

6両3編成をリニューアルし、全車両に車いすやベビーカーをご利用のお客さまのスペースを設け、どなたにもご利用しやすい車両に改修します。また、搭載する防犯カメラは、映像を運輸司令所など離れた場所からリアルタイムに確認できる機能を有しており、緊急時における迅速な対応や正確な状況把握を可能にします。



通勤車両「3000形」車内

3. 新型ロマンスカーの車両設計

特急ロマンスカー・EXE（30000形）の代替であり、VSE（50000形）の後継と位置付ける新型ロマンスカー（80000形）は、2029年3月の就役に向け、詳細設計を実施します。将来にわたるお客さまニーズを追求しながら、沿線の自然豊かな風景との調和や、多様な利用シーンに応える上質な乗車体験の実現を目指します。



新型ロマンスカーイメージ

4. 駅舎改良工事

新宿駅では、東京都・新宿区による「新宿グランドターミナル構想」の一環となる「新宿駅西口地区開発計画」として、駅の利便性と安全性の向上を図っていきます。今年度は、ホーム直上の建物の解体・新築工事について、鉄道運行を継続しながら進めます。

また、鶴川駅と藤沢駅では、地元自治体と連携した自由通路整備事業にあわせて駅舎を橋上化し、まちの回遊性や利便性の向上を実現します。今年度は、各駅舎の建築工事を行うほか、藤沢駅ではホームと橋上駅舎をつなぐエスカレーターとエレベーターを供用開始します。



新宿駅完成後の地上ホームイメージ



藤沢駅完成後の自由通路イメージ

持続可能な運営体制の構築

1. 大野総合車両所の移転計画

現在、相模大野にある「大野総合車両所」で全車両の検査・修理を実施していますが、同施設は開設から60年以上が経過し、施設の老朽化に加え、一部の検査で10両編成に対応していないという課題があります。鉄道事業の安定的な継続と、鉄道車両検修体制のさらなる効率化・高度化を目的に、伊勢原～鶴巻温泉駅間に新たな総合車両所の整備を進めています。

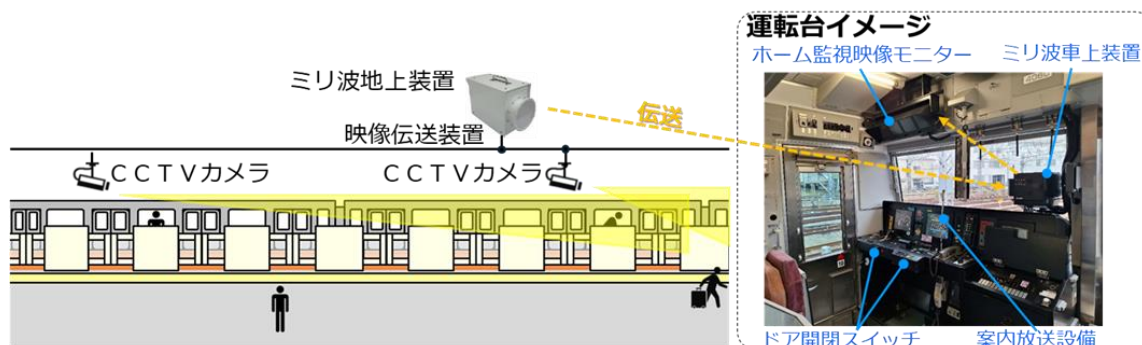


新たな総合車両所イメージ

今年度は用地取得に関する手続きと、次年度以降の工事着手を見据えた詳細設計を実施します。

2. ワンマン運転に向けた工事

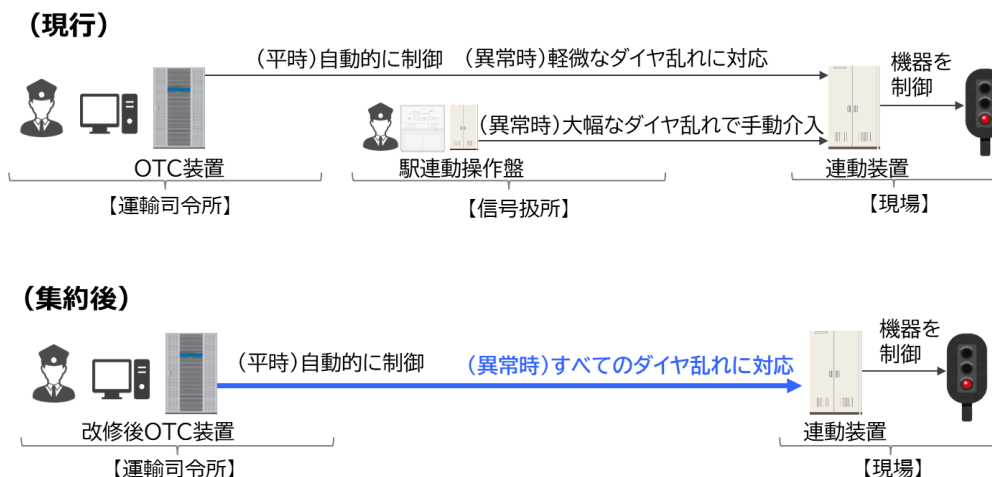
2030年頃から新宿～相模大野駅間でのワンマン運転を開始し、以後順次拡大を目指すため、運転士が安全な扉操作や出発、案内放送を行うための車両改造を実施するほか、駅ホーム上の監視カメラの映像を列車の運転台へ伝送する仕組みを構築します。



ワンマン運転に向けた工事で整備される設備イメージ

3. 信号扱い業務の集約

事故や自然災害に起因して大幅なダイヤ乱れが生じた際には、駅や車両基地で信号扱い業務を実施していますが、一元管理することでより効率的に列車の運行管理を実施するため、同業務を段階的に運輸司令所へ集約するべく、システム構築を行います。



信号扱い業務の集約のイメージ

※ OTC装置：駅の信号機やポイントなどを自動制御するシステム